

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2024.04.30

京大病院医療安全情報143

【インフォームド・コンセント】

2023年度に実施した医療安全調査委員会（外部委員含む）にて以下の提言がありました。各診療科に共通することですので、共有します。

改善策

治療をしない場合の経過や治療計画全体に関して、医療者と患者・家族の間で、共通理解できるようなシステムを検討する。

具体的には、インフォームド・コンセントの場への看護師の同席率を向上させる。あるいは、看護師がインフォームド・コンセントに同席できなかった際には代替として、後から、患者の病態や治療への理解度を確認する。

医療安全調査報告書 抜粋

最近のインシデント報告のカルテレビューで気づいたことを共有します

1. 2つ以上の診療科が合同で手術をする場合、誰が説明に責任をもつ？

正

<「悪性腫瘍切除術」の際、隣接臓器の切除のため他科の応援を依頼>

主科が責任をもって説明し文書に記載

主科が他科の手技についても説明し、説明内容をインフォームド・コンセントの記録に記載したが、患者に渡す文書にはその手技の記載がなかった。

正

<1回の全身麻酔の機会に2つの手術を実施した>

各科がそれぞれ説明を実施

2つの別の術式を1回のタイミングで行った。入院担当科の医師が、他科の手術についても説明した。主科で実施した手術の説明文書のみ患者に渡して説明し、署名をもらったが、他科の手術に関する説明文書は発行していない。

2. 説明文書を渡しているが、「ICタブ」に説明したことの記載がない

術後合併症のためにICUに入室となった。説明文書は渡しており、署名した日と本人の署名が記載されていたが、いつ誰に説明したのか記録がない。

インシデント報告に基づいた対策です

京大病院医療安全情報143

【インフォームド・コンセントの質向上のためのフレームワークをつくりました】

2024年度品質目標 医療安全管理部

「インフォームド・コンセントの質向上を目的として作成された患者説明用ガイダンスの活用を推進する」

インフォームド・コンセントの場で、治療方針について医療者と患者が効果的な対話を実践できるように、「#000_A043_インフォームド・コンセント_患者用ガイダンス」を作成しました（説明文書：DmSelector登録）。

- Step1 説明文書（認証を受けたもの）とガイダンスを事前にお渡しする
- Step2 対面の説明の場で治療方針を説明する。気になる点を話し合う。
- Step3 治療方針について同意/不同意の意思を示し、署名をする

ガイダンスを用いることで、対面の説明の場を効果的にすることができます。

患者さんが希望されたらIC記録を印刷し、お渡しするよう案内しています（IC記録忘れを防ぐための改善策のひとつです）。

「#000_A043_インフォームド・コンセント_患者用ガイダンス」発行数を2カ月に1回、臨床倫理委員会に報告し、診療科にフィードバックします。

患者向けICアンケートにてICの満足度・経験について評価します（年1回）。

良質なインフォームド・コンセントは
良質な治療の始まりです



医療安全管理室作成